⑦防災科研
・温度観測。西部の地熱域で40℃程度、大きな変化はない。
⑧国土地理院
・GPSでは最近は大きな変化はない。APS観測で変化検出。ただし、ローカルな変化か。
≪議論≫
・APS観測で変化場所はリングフィッシャーも見られる場所である。
・熱水系活発でその種の地震も発生という認識。表面は活発、単色地震、これは入れ物ができたのかも。注意する必要はある。
・地殻変動がローカルで浅くなっているとも考えられる。大きな変動はない。浅い方向に移動しているように見える。今すぐ大きな噴火はあるとは思えないが、小さい噴火は十分ありうる。
・地殻変動に大きな変化なし。

7）その他の東北火山

・吾妻山、久しぶりに噴気30m、安達太良山表面現象活発、磁力変化。鳥海山で噴泥。
・安達太良山でM2.3。

8）関東の火山

≪資料説明≫
①気象庁
・那須、静穏。草津白根、静穏。新潟焼山、噴煙多い状態続く。浅間山、9月18日から23日に地震回数増加。それ以降は減っている。微動はない。表面現象異常なし。御嶽山、静穏。富士山、低周波地震が多くなっている。伊豆東部、静穏。伊豆大島、7月16日、26日に西部～西方海域、島内北西部で地震活動。新島・神津、地震活動少なくなっている。
②防災科研
・浅間山の温度。富士山、低周波地震、傾斜に変化はなし。大島、硫黄島、特になし。
③東工大
・草津白根、大きな変化なし。山頂北側噴気ガス中の水素濃度が急減。
④地理院
・伊豆半島水準測量、特に変化なし。神津島周辺、鈍化、10月には停滞へ。
⑤海保
・福徳岡の場で変色水域。

9）九州の火山

≪資料説明≫
①気象庁
・鶴見岳、低周波地震2個。九重山、北西10kmで地震活動。阿蘇、土砂噴、孤立型微動増加、雲仙、静穏。霧島山、7月4日から増加、御鉢も。桜島、6～7月静穏、10月7日に爆発、被害。薩摩硫黄島、地震多い状態、島内で降灰。口永良部島、静穏。諏訪之瀬島、活動続く。
②京大阿蘇
・阿蘇、微動増大、消磁傾向。九重、収縮。
③九大
・雲仙、静穏。
④京大桜島
・姶良カルデラの地盤の隆起は72年のレベルまで回復した。10/7爆発の降下火山灰の分布範囲。25万～40万t。23時間前から傾斜計で緩やかな膨張と収縮。薩摩硫黄島、口永良部島で集中総合観測を実施中。
⑤地理院
・桜島の地殻変動。トカラ列島。
⑥地調
・薩摩硫黄島、火山灰分析、新たなマグマなし。

火山噴火予知連絡会第3回活火山ワーキンググループ　議事録

日　時：平成13年2月5日（月）10時15分～11時30分
場　所：気象庁第1会議室
出席者：委　　員：井田、宇井、藤井(敏)、渡辺、鍵山、藤井(直)、中辻（代理：内閣府）、須藤(茂)、植田、竹内
　　オブザーバー：坂井（気象研）、加藤（海保）
　　事 務 局：小宮、山里、佐久間、西脇

検討方針とスケジュール等

・昨年2月火山噴火予知連絡会の時のWGの会合で、大人数で短時間の議論をしてもなかなか進まないことから、火山噴火予知連絡会のメンバー以外も補充して、専門家だけで小さい会を開き集中的に検討する方向が出され、1月25日に、事前検討会を行った。火山噴火予知連絡会の委員以外から林、鎌田両氏を加えた。
・具体的作業について外注することにした。
・有珠の噴火、三宅島の噴火で遅れたが、事前検討会では、3時間ほど、(財)日本気象協会作成の冊子（日本火山学会刊行の第四紀

火山カタログ作成当時の資料がもとになっている）をもとに検討した。
・ランク付けまで含め2年がデッドライン。活火山の選定を来年2月くらいには決めたい。1年遅れとなったが、集中的に行う。
・４月26～27日に泊りがけで会合を計画中。
・次のような問題点が明らかになっている。
（1）海底火山の定義：海底火山の深さ等
（2）どこまで１つの火山とするか：地元の認識、単成火山群、巨大カルデラ噴火、防災計画との関連、観測体制
・ランク分けの方針は今後の課題。
・一例として、鍋島岳のケースを検討した。

火山噴火予知連絡会幹事会　議事録

日　時：平成13年２月５日（月）12時15分～13時00分
場　所：気象庁第２会議室
出席者：幹　　事：井田、藤井(敏)、渡辺、藤井(直)、須田、竹内
　　オブザーバー：吉田、早川（文部科学省）、中辻（内閣府）
　　事 務 局：内池、小宮、川津、山里、佐久間

１．部会及びＷＧについて

１）有珠山部会及び伊豆部会についての議論
・部会の扱いについて。以前の幹事会で、部会は臨機応変に設置、廃止していく、広域な地域を対象とする部会は設置しないという方針を決めた。
・有珠山部会は役目を終えたので廃止でいいのではないか、伊豆部会は三宅島部会とすべきである、という意見が出た。
・気象庁側から、有珠山部会については、まだ防災対応が行われていること、伊豆部会について、今、名称を変更するメリットがないことから、いずれも、現状維持としたいとの希望。
・伊豆部会に限り、現状のままとし、実質上三宅島部会のつもりで運営していく方針を了承。
・有珠山部会については、結論が出ず、取扱いについて、再度、事務局で検討することとなった。

２）活火山ＷＧについて
・１月25日、宇井委員をはじめ小グループで会合を持った。１万年以内噴火火山を対象とするということで、方針として２年でランクも含んだ火山リストを作成するということにしたい。本日午前にもＷＧを開催し、議論を進めた。この後の本会議で宇井委員から説明いただく。活火山の範囲などについて議論している。

３）富士山について
・昨年10～11月、低周波数地震が多発した。12月27日の勉強会で富士山についても議論した。火山噴火予知連絡会として何らかの対応をした方がいいのではという意見が出た。
・火山噴火予知連絡会の対応を考えるWGを設置することについて議論したが、WGの目的がまだ明確でない、今回は欠席幹事が多い、等の理由により今回は見送ることになった。しかし、前向きに検討する、議論を進めるということで合意した。

２．運営要綱の改正

省庁再編に伴い、委員・幹事の変更を行った。４月に独立行政法人化される機関についてはその際にも見直される。

３．その他

今年度の補正予算で気象庁は、危険な場所での観測のための無人ヘリ、ペネトレータ等の整備を行った。なお、各委員との意思疎通を図るため、ＴＶ会議システムを各幹事や主な委員のところに設置したいと考えている。具体的に個別に相談させていただく。

火山噴火予知研究協議会で、緊急時の観測体制の構築について覚え書きが紹介された。

第88回火山噴火予知連絡会　議事録

日　時：平成13年２月５日（月）13時00分～18時45分
場　所：気象庁第１会議室
出席者：会　　長：井田
　　委　　員：宇井、野津、渡辺、歌田、鍵山、平林、藤井(直)、清水、布村、須田、須藤(茂)、村上（代理：地理院）、植田、岡田(義)、内池、竹内、中禮（代理：気象研）、望月
　　臨時委員：石井、武尾、土井、勝井、大島、小山、津久井、荒牧、中村
　　名誉顧問：下鶴
　　オブザーバー：森（北大理）、関、黒沢（内閣官房）、吉田、早川（文科省）、中辻（内閣府）、宇都、篠原（地調）、佐々木、大瀧、小荒井、松尾（地理院）、加藤（海保）、鵜川、大倉（防災科研）、廣田、福井、山本（哲）、坂井、藤原（気象研）、角村（地磁気観）、浦塚（通総研）、宇平（海洋科学技術セ）、杉村（消防庁）、高橋、斎藤（岩手県）、野口、塚原、宮崎（東京都）、佐久間（三宅村）、岩田（静岡県）、細田（山梨県）、前田（仙台管区気象台）、酒井、小林（盛岡地方気象台）、高橋、稲葉（福島地方気象台）、小久保（東京管区気象台）、三村（甲府地方気象台）、柿下（静岡地方気象台）、田崎（三宅島測候所）
　　事 務 局：山本(孝)、小宮、山里、佐久間、西脇、潟山、濱田、横田、川津、三上、小出